

あきたからの米レター

令和3年産米 秋田県の水稲の作柄 (8月15日時点)

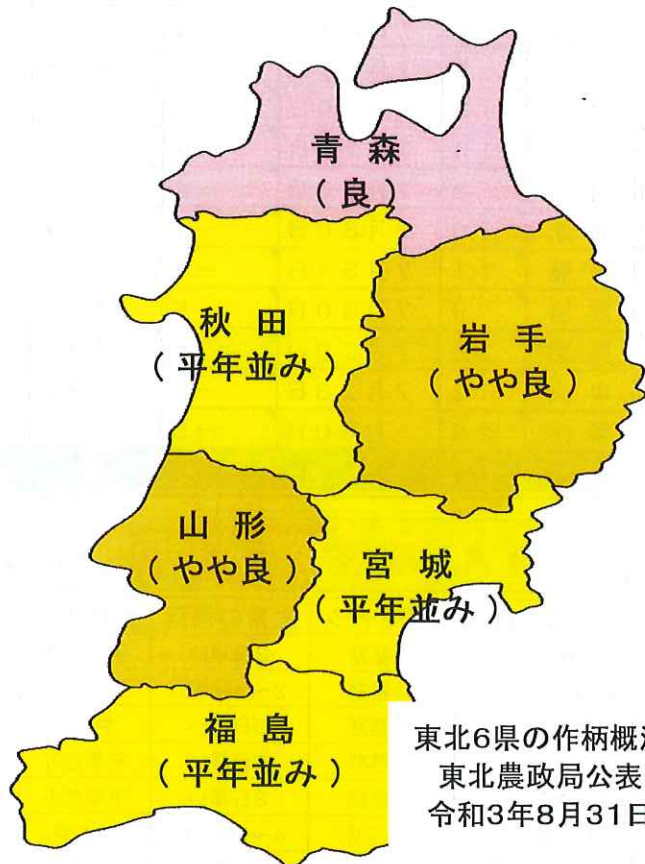
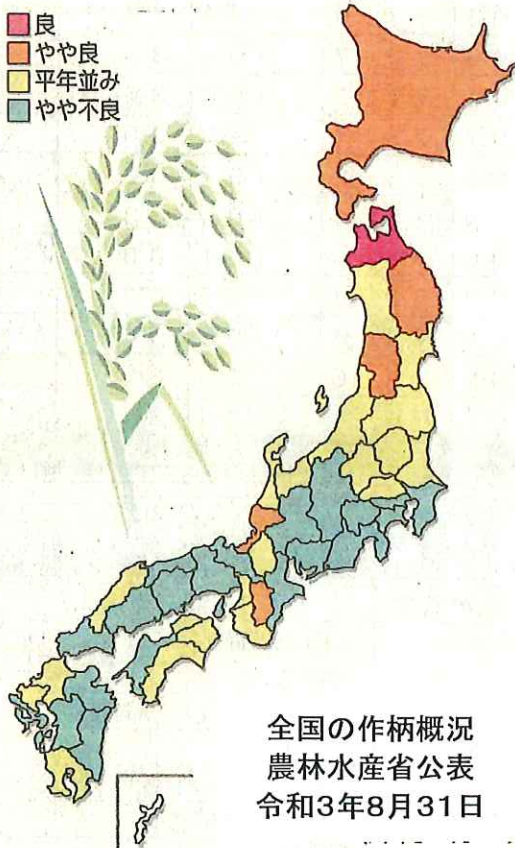
「平年並み」の見込み

5月下旬の低温・日照不足影響か

令和3年8月31日
東北農政局公表

東北農政局は、8月15日現在における秋田県の水稲の作柄は「平年並み」が見込まれると発表した。秋田県拠点では、この要因は田植え時期の5月下旬の低温と日照不足が影響したとみており、田植えの最盛期は5月22日(平年比-1日)のほぼ平年並みとなっている。出穂前後は高温が続き、稲の生育が早まり、出穂の最盛期は7月31日で平年より4日早まっている。今年は出穂が早く、その後もおおむね天候に恵まれていることから、生育も順調に進んでおり、稲刈りが早まる可能性がある。今後の天候に注意して刈り取り適期を逃さないように気をつけて欲しいとしている。

■ 良
■ やや良
■ 平年並み
■ やや不良



- 作柄の良否(平年比較)の表示区分は、「良」が106%以上、「やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%に相当する。
- 作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件等により変動する。(農林水産省)

出穂7月29日、記録的な早さ（－5日）

地域差、ほ場間差大きく、登熟にバラツキが目立つ

－ 早期落水防止と適期刈り取りによる品質向上を －

8月20日に行った各地域振興局農林部農業振興普及課定点ほ場の「あきたこまち」の生育は、全県平均でみると、出穂は7月29日で平年より5日早まっている。穂数は452本/㎡（平比101%）、1穂粒数74.7粒（同102%）、総粒数33.6千粒/㎡（同103%）である。出穂前後は気温が高く日照時間の多い日が続いたことから、初期登熟は順調に進んでいるが、高温時の出穂は胴割れ粒や白未熟粒の発生が心配される。また、出穂は地域差、ほ場間差、株内のバラツキが大きく、今後は早期落水防止など登熟の向上を図るとともに、品質・食味を落とさない適期刈り取りが重要となる。

農業振興普及課定点調査結果

（令和3年8月20日調査、品種：あきたこまち）

農 業 振 興 普 及 課	調 査 点 数	出穂期		穂数		着粒数			
		本年	平年差	㎡当たり		1穂当たり		㎡当たり	
		(日)	日	(本)	(%)	(粒)	(%)	(千粒)	(%)
鹿 角	5	7月31日	－3	501	104	63.9	94	32.0	98
北秋田	9	7月27日	－5	461	99	72.7	105	33.2	103
山 本	9	7月29日	－5	454	101	79.3	106	36.0	106
秋 田	10	7月28日	－4	420	97	73.7	98	30.9	95
由 利	2	7月30日	－4	450	105	73.2	101	32.9	107
仙 北	10	7月30日	－4	447	100	75.4	103	33.6	104
平 鹿	11	7月31日	－4	469	106	76.6	101	35.7	107
雄 勝	8	7月30日	－5	431	98	76.4	106	32.8	103
県 北	23	7月29日	－4	467	101	73.4	103	34.1	104
中 央	12	7月28日	－4	425	98	73.6	98	31.2	97
県 南	29	7月30日	－5	451	101	76.1	103	34.2	105
全 県	64	7月29日	－5	452	101	74.7	102	33.6	103

各 J A の 生 育 状 況 （品種：あきたこまち）

令和3年9月1日現在、聞き取り及び遠観調査

J A 名	生育ステージ	生育の遅延	生育状況	病害虫の発生	特記事項
かつの	黄熟期	3日早い	平年並み	平年並み	出穂にほ場間差大きい。カメムシやや多い。
あきた北	黄熟期	2～3日早い	平年並み	少ない	特になし。
秋田たかのす	黄熟期	5日早い	やや良	少ない	穂数やや少なく、1穂着粒数多い。
あきた白神	黄熟期	5日早い	平年並み	平年並み	特になし。
秋田やまもと	黄熟期	3日早い	平年並み	多い	高温による登熟不良懸念。カメムシ多い。
あきた湖東	黄熟期	4～5日早い	やや良	平年並み	穂数多、カメムシ多い。
秋田なまはげ	黄熟期	2～3日早い	平年並み	多い	カメムシ多い。
大潟村OE公社	黄熟期	4日早い	平年並み	多い	第5節間がやや長い。
秋田しんせい	黄熟期	5日早い	やや良	やや多い	刈り取り早まる。カメムシ多い。
秋田おばこ	黄熟期	3日早い	平年並み	平年並み	1穂着粒数多い。カメムシ少ない。
秋田ふるさと	黄熟期	3日早い	平年並み	平年並み	いもち病散見。残草やや多い。
こまち	黄熟期	4日早い	平年並み	やや多い	いもち病散見。残草やや多い。
うご	黄熟期	4日早い	平年並み	やや多い	いもち病やや多い。

9月の気温は平年並みに推移(3カ月予報)

9月第1週は気温の「低い」確率50%(1カ月予報)

秋雨前線の影響により天気は周期的に変わる

東北地方の各階級の確率

仙台管区気象台

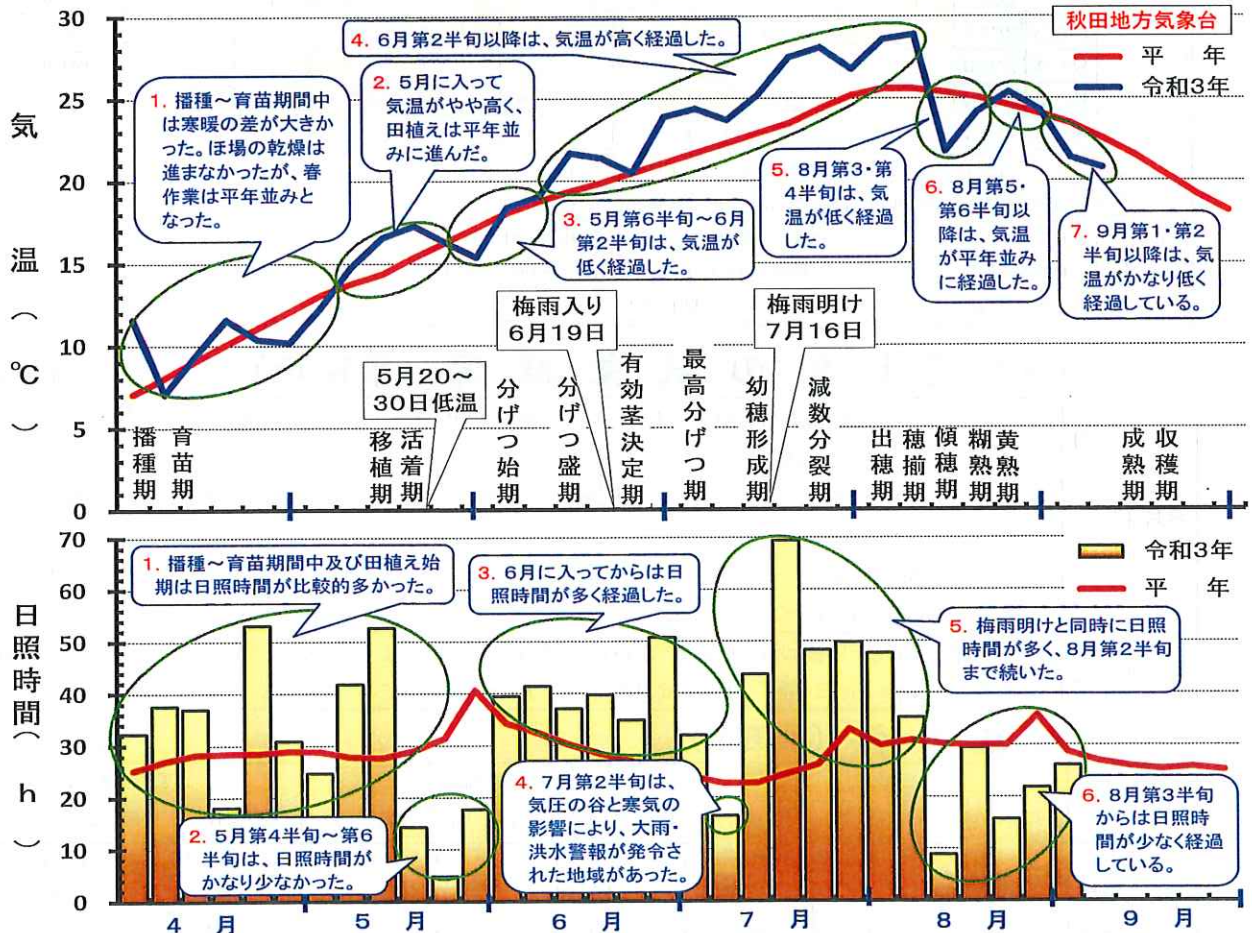
3カ月予報 8月25日発表			
3月	30	30	40
9月	30	40	30
10月	20	40	40
11月	30	40	30

1カ月予報 (9月4日～10月3日まで) 9月2日発表			
気温	30	40	30
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40
凡例	低い	平年並み	高い

仙台管区気象台が8月25日に発表した9月～11月までの3カ月予報では、9月は気温の高い確率が30%で、とくに日本海側は晴れる日と雨の日が数日の周期で変わると発表した。
また、9月2日に発表した1カ月予報では、期間の第1週は秋雨前線の影響により気温の低い確率を50%としている。第2週と第3～4週はほぼ平年並みに推移すると予想している。

仙台管区気象台

1カ月予報 (9月4日～10月3日まで) 9月2日発表			
1カ月	30	40	30
1週目	50	40	10
2週目	20	50	30
3～4週	20	40	40



一 出穂期前後は高温・多照 一

初期登熟順調、登熟中・後期低温・寡照登熟鈍化

早期落水防止と適期刈り取り

令和3年の日平均気温・最高気温と過去の高温年次との比較

地 域	年 次	西 暦	7 月							8 月																			
			27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
秋 田	H- 6	1994								出																			
	H-11	1999							出																				
	H-12	2000							出																				
	H-22	2010					出																						
	H-24	2012									出																		
	H-28	2016					出																						
	R- 1	2019							出																				
	R- 2	2020							出																				
	R- 3	2021					出																						

地 域	年 次	西 暦	8 月							9 月												収 量	1等米比率		
			23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	kg／10a	%
秋 田	H- 6	1994																						592	89. 7
	H-11	1999																					580	51. 4	
	H-12	2000																					575	84. 6	
	H-22	2010																					535	72. 9	
	H-24	2012																					569	87. 0	
	H-28	2016																					591	92. 5	
	R- 1	2019																					600	85. 0	
	R- 2	2020																					602	98. 7	
	R- 3	2021																					?	?	

</

凡例

■ : 日平均気温30.0℃以上、日最高気温35.0℃以上に両方超えた日

■ : 日平均気温30.0℃以上、日最高気温35.0℃以上にどちらかが超えた日

■ : 日平均気温25.0～29.9℃、日最高気温30.0～34.9℃に両方到達した日

■ : 日平均気温25.0～29.9℃、日最高気温30.0～34.9℃にどちらかが到達した日

■ : 日平均気温24.9℃以下、日最高気温29.9℃以下の日

8月・9月上旬の気象概況(秋田市)

秋田地方気象台

8月	上旬	この期間、高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温も高めに推移したが、10日は台風9号から変わった低気圧の影響により、大雨になったところもあった。
	中旬	この期間、前線や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多く、気温は低めに経過したが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。
	下旬	この期間、低気圧や気圧の谷の影響により曇りや雨の日が多く、25日には台風12号から変わった低気圧の影響により大雨になったところもあった。
9月	上旬	この期間、高気圧に覆われて晴れや曇りの日が多かったが、気温は低めに経過した。また、低気圧や前線の影響で雨が降った日もあり、9日には県の北部で大雨となったところがあった。

気象統計値(秋田市)

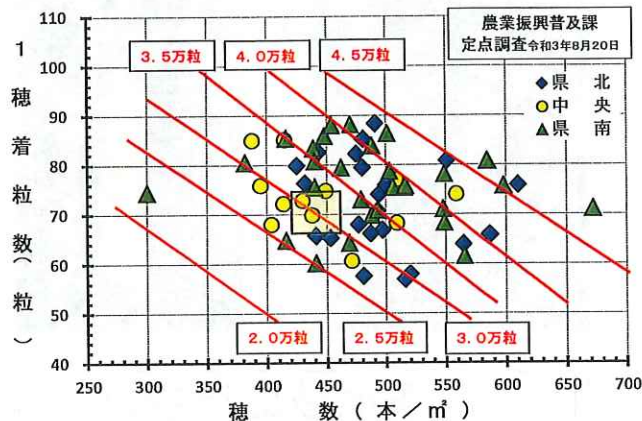
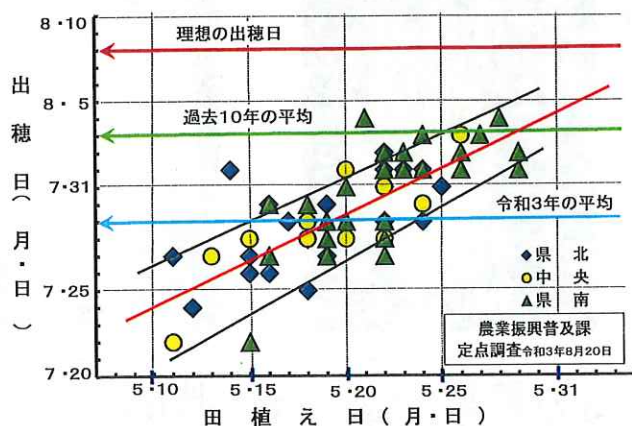
秋田地方気象台

月	旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(h)		
		平均(℃)	平年差(℃)	階級区分	降水量(mm)	平年比(%)	階級区分	積算(h)	平年比(%)	階級区分
8月	上旬	28.7	+3.0	かなり高い	40.0	86	平年並み	83.0	132	多い
	中旬	23.0	-2.3	かなり低い	16.0	26	少ない	38.4	64	少ない
	下旬	24.8	+0.6	高い	116.5	153	多い	37.5	59	少ない
9月	上旬	21.1	-2.2	低い	7.5	15	かなり少ない	58.4	101	平年並み

出穂期5日早まり初期登熟順調

地域差、ほ場間差大きく、登熟にバラツキが目立つ

— 早期落水防止と適期刈り取りによる品質向上を —



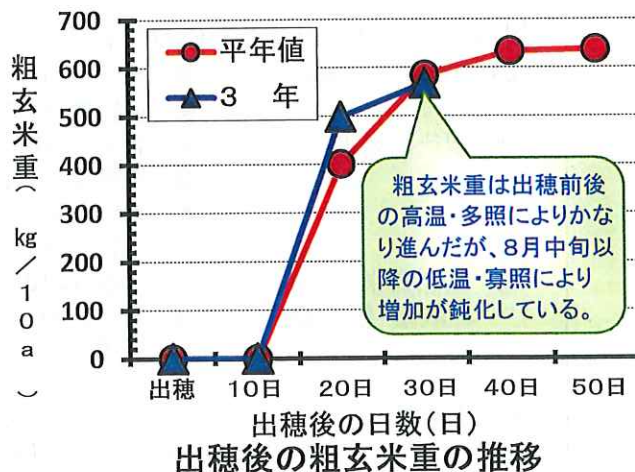
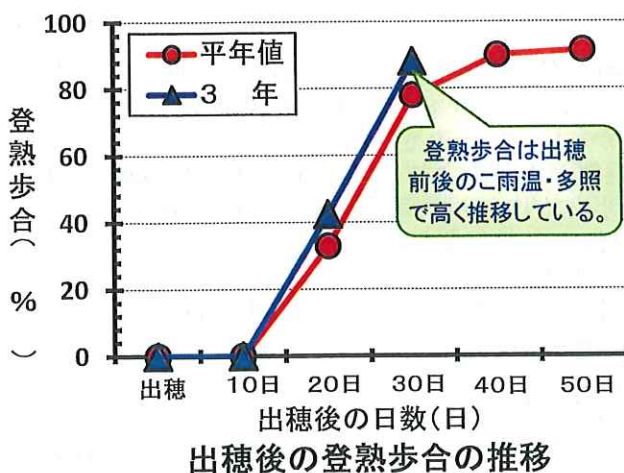
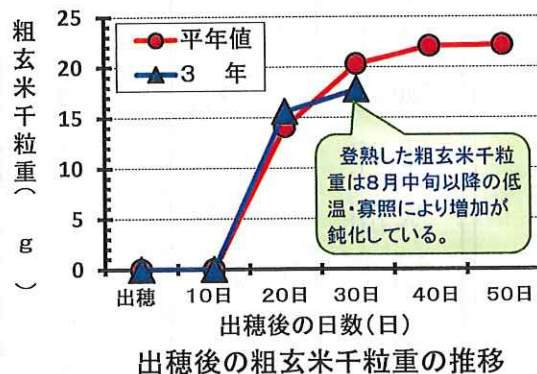
初期登熟順調、登熟中・後期登熟鈍化

農業試験場気象感応試験5月15日植えの登熟状況をみると、出穂30日後の登熟歩合は88.2%(平年差+10.2ポイント)、粗玄米千粒重17.8g(平年比88%)、1株当たりの粒数が1,614粒(同113%)であるが、登熟中・後期の低温・寡照により10a当たりの粗玄米重は568kg/10a(同97%)で平年よりやや低く経過している。

出穂10日後の粒の大きさ

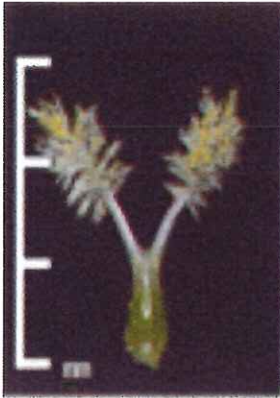
項目	本年	平年	平年差・比(%)
出穂期(月/日)	7.25	7.31	-6
粒殻長(mm)	7.39	7.29	101
粒殻幅(mm)	3.57	3.43	104
1株平均穂数	22.9	21.3	108
1穂平均粒数	70.5	68.5	103
1株当たり粒数	1,614	1,454	111

注: 平年は平成12年～令和2年の平均値



玄米の発達過程

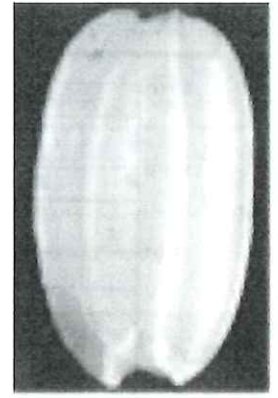
めしべ



開花・受精から45日で精玄米



玄米



各地域の出穂後30日間の積算気温・日照時間

地域	出穂期(月・日)		出穂期翌日から30日間			
			積算気温(℃、%)		日照時間(h、%)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
鹿角	7. 31	－3	685	100	126	77
鷹巣	7. 27	－5	736	103	149	87
能代	7. 29	－5	747	102	183	102
秋田	7. 28	－4	778	103	175	97
本荘	7. 30	－4	757	103	166	85
大曲	7. 30	－4	751	103	158	89
横手	7. 31	－4	756	102	137	80
湯沢	7. 30	－5	721	100	142	81

刈り取りに向けた技術対策

- ◎ 刈り取り時期の診断 :
 - 品種別、ほ場別に刈り取り時期を正しく診断し適期刈り取りに努める。
 - 積算気温、籾の黄化程度90%など総合的に刈り取り時期を判断する。
- ◎ 倒伏ほ場の刈り取り :
 - 停滞水の速やかな排除に努める。
 - 穂発芽による品質低下が懸念される場合は速やかに収穫作業に入る。
 - 追い刈りや横刈りなどにより刈り取り精度の向上に努める。
 - 被害籾は仕分けして乾燥調製を行う。
- ◎ 高品質米生産のための収穫・乾燥調製 :
 - 高水分籾の刈り取りは絶対避ける。
 - 籾水分の測定は、できる限りサンプル数を多くして行う。
 - 二段乾燥で過乾燥の防止に努める。
 - 網目は1.90mmで行い、整粒歩合80%以上に仕上げる。
- ◎ 農作業の事故防止 :
 - 無理のない作業計画を立てる。
 - 作業前には体調を万全に整え、作業に適した服装で作業を行う。

一 登熟中・後期は低温・寡照で登熟鈍化

刈り取りは積算気温を基に籾の黄化程度90%を目安に

令和3年 出穂期翌日からみた積算気温による刈り取り適期予想								
秋 田		出穂期翌日からの積算気温(℃)					9月7日以降平年値	
月	日	出穂期 出穂期翌日	7月25日	7月28日	7月31日	8月 3日	8月 6日	8月 9日
7	積算	日平均	160.7	81.7	0	0	0	0
8	積算	気温(℃)	790.5	790.5	790.5	706.2	617.0	526.8
9月	1	20.8	972.0	893.0	811.3	727.0	637.8	547.6
	2	21.6	993.6	914.6	832.9	748.6	659.4	569.2
	3	22.6	1,016.2	937.2	855.5	771.2	682.0	591.8
	4	20.7	1,036.9	957.9	876.2	791.9	702.7	612.7
	5	21.1	1,058.0	979.0	897.3	813.0	723.8	633.6
	6	20.6	1,078.6	999.6	917.9	833.6	744.4	654.2
	7	22.8	1,101.4	1,022.4	940.7	856.4	767.2	677.0
	8	22.7	1,124.1	1,045.1	963.4	879.1	789.9	699.7
	9	22.4	1,146.5	1,067.5	985.8	901.5	812.3	722.1
	10	22.2	1,168.7	1,089.7	1,008.0	923.7	834.5	744.3
	11	22.0		1,111.7	1,030.0	945.7	856.5	766.3
	12	21.8		1,133.5	1,051.8	967.5	878.3	788.1
	13	21.6		1,155.1	1,073.6	989.1	899.9	809.7
	14	21.3			1,094.9	1,010.4	921.2	831.0
	15	21.1			1,116.0	1,031.5	942.3	852.1
	16	20.9			1,136.9	1,052.4	963.2	873.0
	17	20.6			1,157.5	1,073.0	983.8	893.6
	18	20.4				1,093.4	1,004.2	914.0
	19	20.1				1,113.5	1,024.3	934.1
	20	19.9				1,133.4	1,044.2	954.0
	21	19.7				1,153.1	1,063.9	973.7
	22	19.4					1,083.3	993.1
	23	19.2					1,102.5	1,012.3
	24	19.0					1,121.5	1,031.3
	25	18.8					1,140.3	1,050.1
	26	18.6					1,158.9	1,068.7
	27	18.4						1,087.1
	28	18.2						1,105.3
	29	18.0						1,123.3
	30	17.8						1,141.1
10月	1	17.6						1,158.7
	2	17.4						

早 生 : 秋のきらめき、あきたこまち

中生の晩 : めんこいな、ひとめぼれ
ゆめおぼこ、ササニシキ

晩 生 : つぶぞろい、サキホコレ

一 登熟中・後期は低温・寡照で登熟鈍化

刈り取りは積算気温を基に籾の黄化程度90%を目安に

高品質・良食味米の米生産には

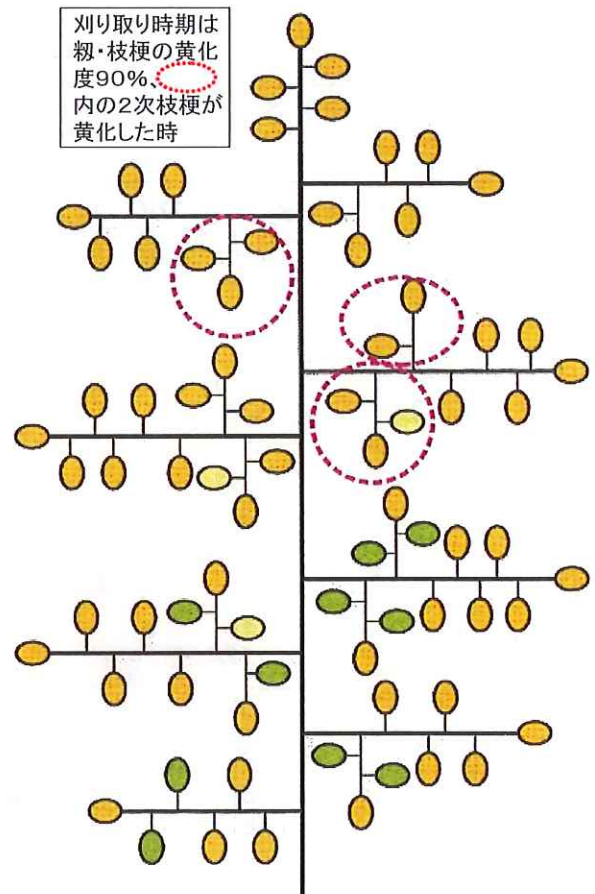
- 積算気温を基に刈り取り時期を判断！！
あきたこまちの刈り取りは、積算気温で950℃に到達してから行う。1,050℃以降の刈り取りは、品質低下となる。
- 刈り取り時期の最終判断は、籾・枝梗の黄化度90%を目安に実施する。
○ 内の2次枝梗が黄化した時点。

早刈り・遅刈りは厳禁

- 早過ぎると青米と未熟粒が多くなる。
- 遅過ぎると胴割れや茶米が多くなる。

刈り取りの判断

各地域振興局農業振興普及課定点ほ場の平均出穂期から「あきたこまち」の刈り取り時期を推定した。出穂以降950℃及び1,050℃に達する日(8月27日以降は気温の平年値を使用)は表の通りです。初期登熟は順調に経過したが、8月中・下旬から低温・寡照で推移しており登熟は鈍化しています。刈り取りは積算気温を基に籾の黄化度90%を目安として総合的に判断して刈り取ります。



あきたこまちの日照時間・積算気温からみた目安

地域	出穂期		日照時間	気温(月・日)	
	本年	平年差		950℃	1050℃
鹿角	7. 31	－3	9月11日	9月13日	9月18日
鷹巣	7. 27	－5	9月 2日	9月 5日	9月10日
能代	7. 29	－5	8月28日	9月 7日	9月11日
秋田	7. 28	－4	8月29日	9月 4日	9月 8日
本荘	7. 30	－4	8月31日	9月 7日	9月12日
大曲	7. 30	－4	9月 3日	9月 7日	9月12日
横手	7. 31	－4	9月 8日	9月 8日	9月13日
湯沢	7. 30	－5	9月 7日	9月 9日	9月14日

8月27日以降平年値

9月は稲づくりの最終ステージである。

水稻の出穂は平年より5日早まり、「あきたこまち」が作付けされてから最速となった。今冬の豪雪から始まって、4月・5月の低温、6月上旬～8月上旬の高温・多照、8月中旬からは日照不足に遭遇してきたが、一転して8月10日以降は最低気温が低く、日照不足ぎみに経過している。初期登熟は非常に早く進んでいたが、登熟中・後期は稔りが進まず、刈り取りは平年並みになるものと推察される。

東北農政局は8月31日(8月15日現在)に秋田県の作柄は「平年並み」が見込まれると公表した。

また、8月20日の各地域振興局農林部農業振興普及課定点調査「あきたこまち」の結果では、全県の生育を平均でみると㎡当たり穂数452本(平年比101%)、1穂当たり粒数は74.7粒(同102%)、㎡当たり総粒数33.6千粒/㎡(同103%)であった。生育状況としては総粒数が平年並みとなっている。依然として、地域差、ほ場間差、ほ場内でも出穂のバラツキが目立ち、1株の中でさえも強勢穂と弱勢穂の間に収穫の遅延が認められる。

コロナ禍のおり講習会やほ場巡回が軒並み中止となり、きめ細かな肥培管理の指導も出来ず、作柄に不安を募らせていた生産者や営農指導員は一先ずほっとしているようである。台風や秋雨前線などいかなる気象に遭遇しようとも、適期刈り取りに努め、品質の良い美味しい米の生産を心掛ける必要がある。大豊作とまではいなくても、平年作を期待して良い出来秋を迎えたいものである。

今春、一時コロナの感染が下火になった3月下旬に、平鹿町・浅舞北部地区土地改良協議会の講演があった。秋田県農地・水・環境保全評価員に就いていた時に、樽見内農地水環境保全組合の取り組みに「鹿嶋様」、「鹿嶋梨」の説明を受けた。毎年7月中旬に、地域住民と浅舞小学校の児童らが、五穀豊穡、無病息災、家内安全などをしめ縄とわらやガジギ(イネ科のマコモ)で作った人形を「鹿嶋梨」に備え置き、「鹿嶋大明神」に託す「鹿嶋様祭」が行われている。出来秋を迎えようとしていた折りに、今年から秋田の新品種「サキホコレ」の先行作付けの現地試験が隣の集落で実証していたので、久々に「鹿嶋梨」に立ち寄った。「鹿嶋梨」の近傍の稲穂は黄金色に輝き、稲穂の波が今年の豊作と、「サキホコレ」へエールを送っているかのようであった。

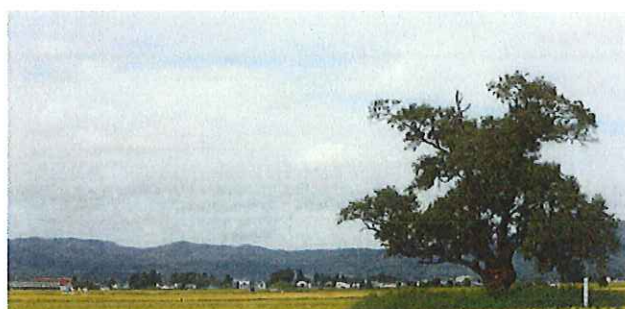
地域の豊作と無病息災、「鹿嶋様祭」は子供達が大きくなった時に、この文化を受け継いで行くことだろうと思いを馳せながら帰路に就いた。

こだま



わら人形
7月16日

鹿嶋梨
9月13日



全国農業協同組合連合会 秋田県本部
〒010-8558秋田市八橋南2-10-16
URL: <http://www.ak.zennoh.or.jp/>

今回の発行は10月15日頃

資料の使用に当たっては米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部
〒011-0901
秋田市寺内字神屋敷295-53
TEL: 018-845-8500
FAX: 018-880-1572

